

4.4 中長期整備に関する事項

(1) 対象とする期間

計画（中長期）の対象とする期間は、計画策定時より概ね30年間とする。

(2) 計画の目標

既往最大被害となった「昭和58年9月台風10号」と同規模の洪水に対し、宅地部での床上浸水被害を防止する。

(3) 計画の対策メニュー

1) ハード対策

① 排水機場の整備（長野県）

・浅川排水機場のポンプ増設

千曲川合流点の左岸に排水機場7m³/sを増設することにより、浅川から千曲川への排水能力を高め、浸水被害の軽減を図る。

- ・7m³/s増設（短期整備後58m³/s → 65m³/s）

図4.4.1は、増設する浅川排水機場の設置位置を示したものである。

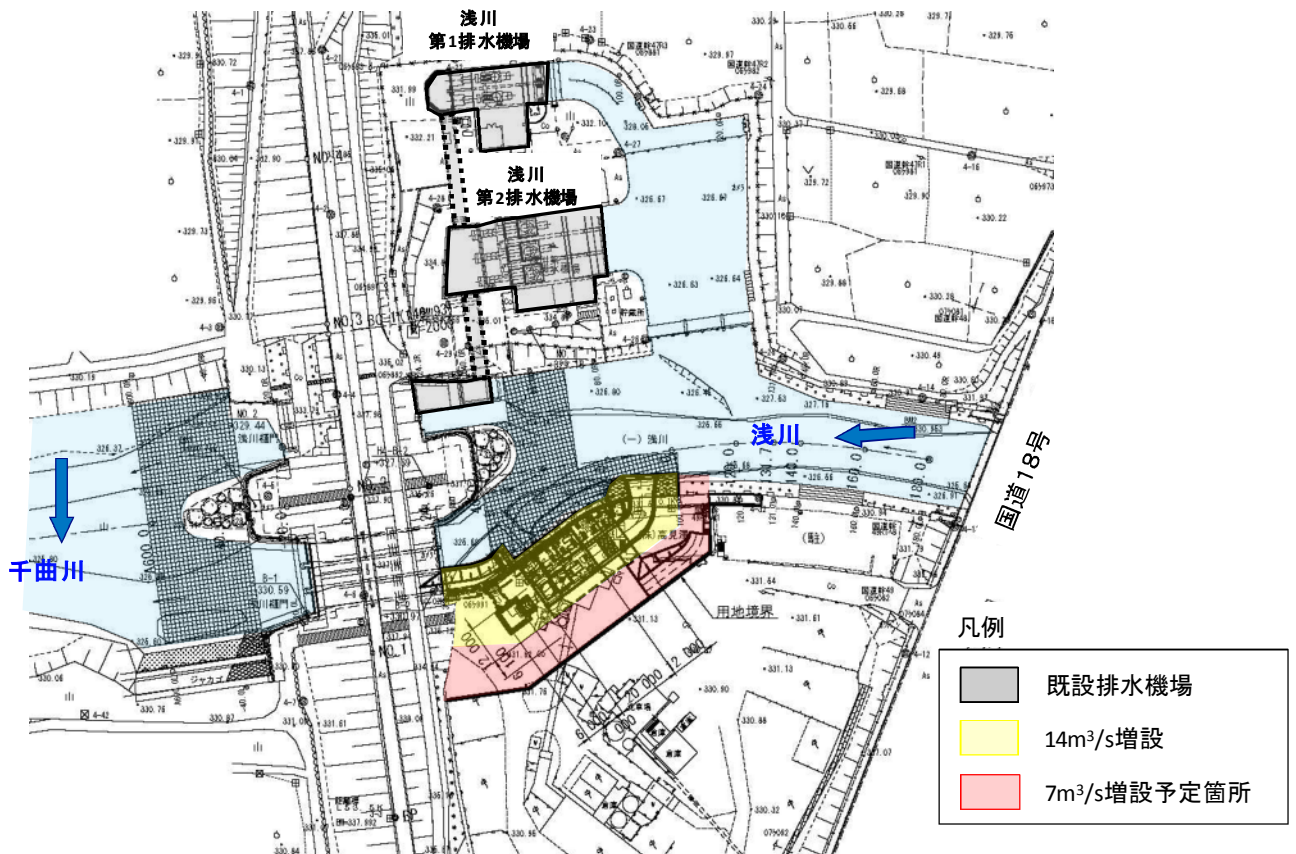


図 4.4.1 浅川排水機場増設 概要図

・浅川第1排水機場の更新等（長野県・長野市）

現在、長野市が管理している浅川第1排水機場は、設置から40年以上が経過し、施設の老朽化が進行している。

このため故障等により施設の機能維持が困難となった場合には、関係機関と協議のうえ、県で対応する。

② 堤防の嵩上げ（長野県）

千曲川合流点から上流0.2km～1.7km区間の、浅川の堤防嵩上げを行い、宅地部での床上浸水被害を防止する。図4.4.2は、堤防の嵩上げの施工位置を示したものである。

なお、堤防の嵩上げ工事の実施については、住民の理解が得られるよう取り組む。

・L=1,500m H=0.15～0.95m

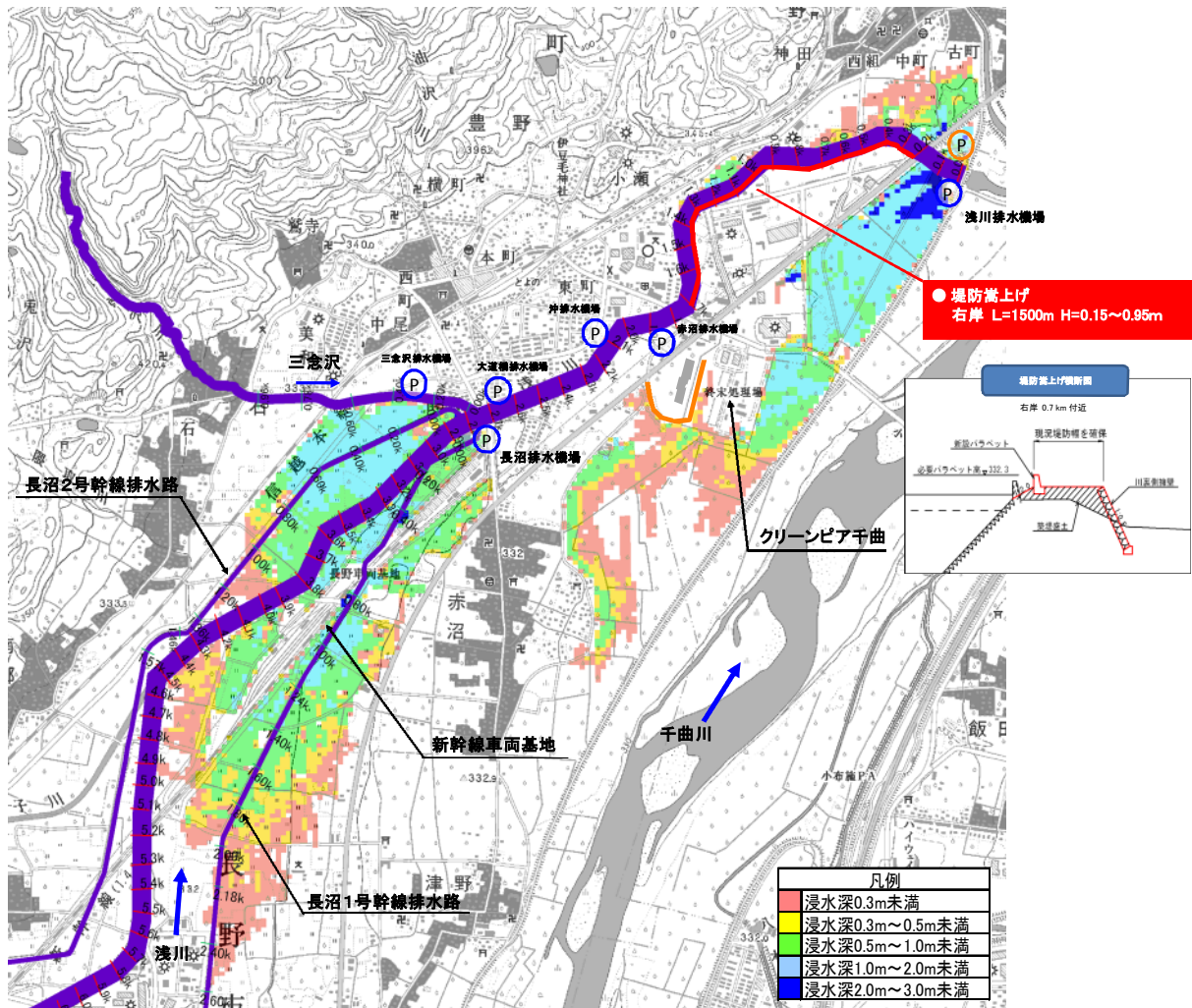


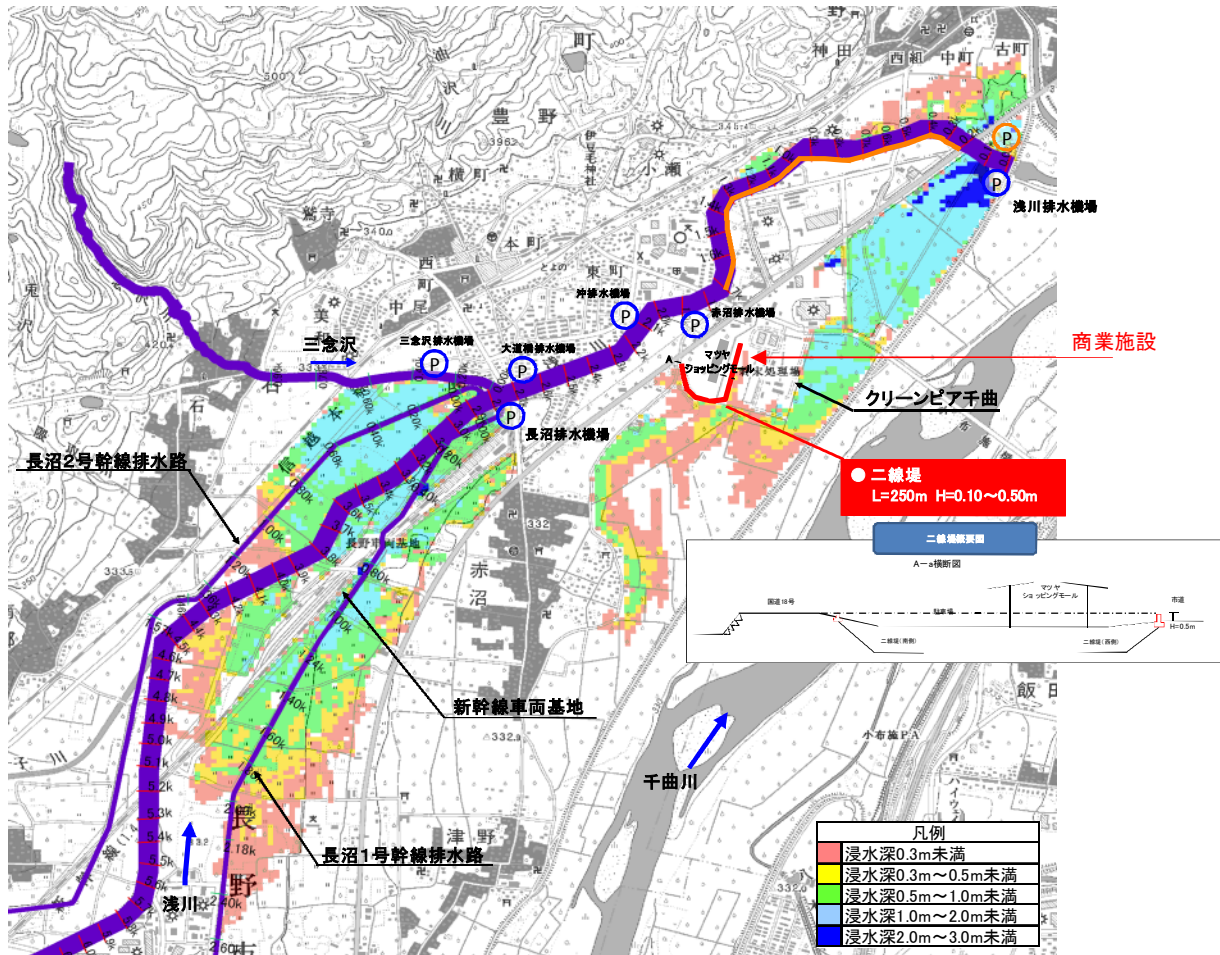
図 4.4.2 堤防嵩上げ概要図

③ 二線堤（実施主体未定）

図 4.4.3 に示した商業施設は、多くの市民が利用するため、周辺に二線堤を設置することにより来場者を浸水被害から防止する。図 4.4.3 は、二線堤の施工位置を示したものである。

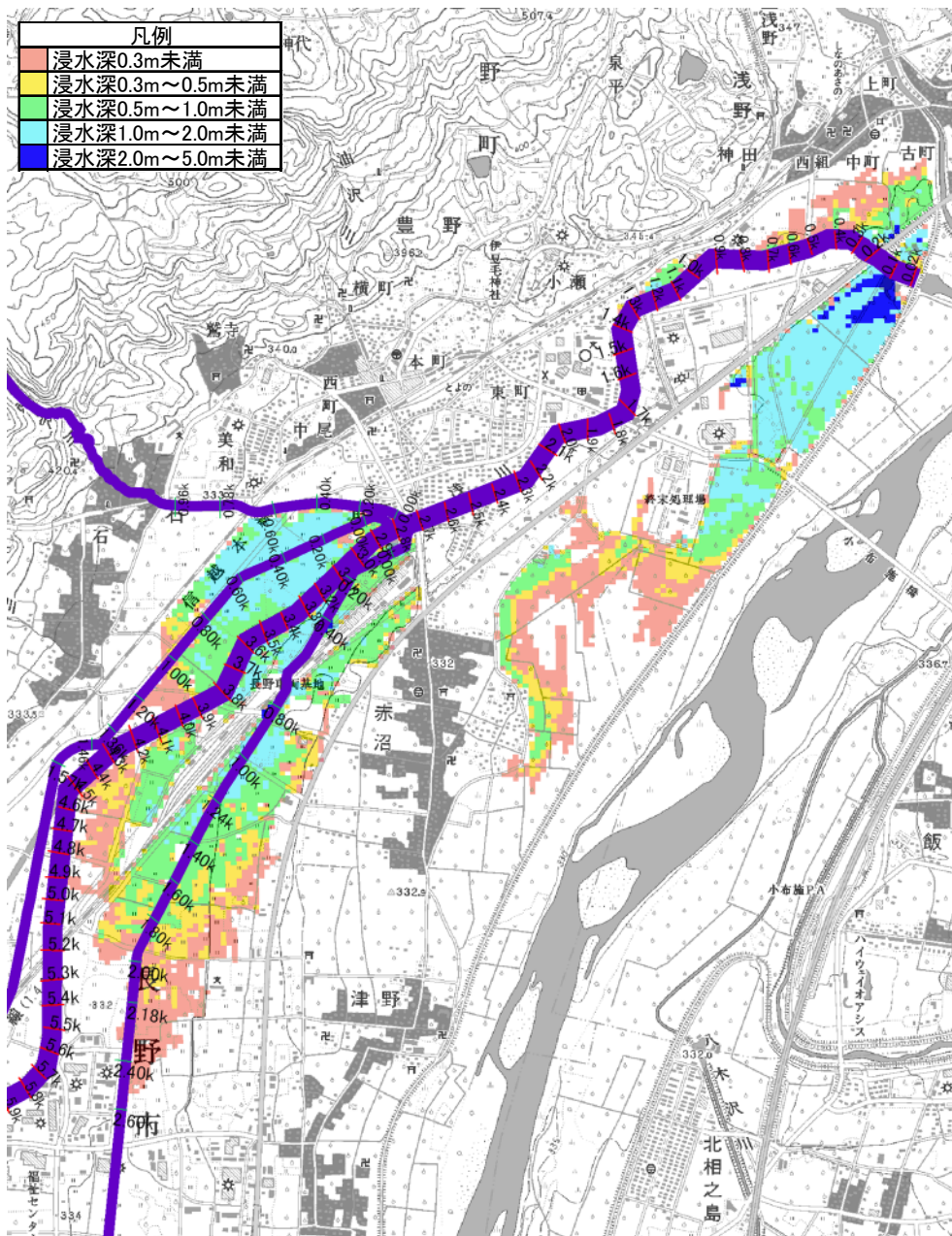
なお、二線堤工事の実施については、住民の理解が得られるように取り組む。

- L=250m H=0.15~0.50m



(4) 想定される効果

昭和 58 年 9 月洪水を対象として、全対策実施後の内水浸水想定区域とその浸水深を解析より求めた結果を以下に示す。



浸水面積 (ha)	212.90
床下浸水 (棟)	0
床上浸水 (棟)	0

※このシミュレーションの実施にあたっては、「昭和 58 年 9 月台風 10 号」と同規模の洪水に対して、千曲川の水位が計画高水位 (H. W. L) を越えない前提で解析している。想定を越える降雨や水位上昇によりこの浸水想定区域以外の区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がある。

図 4.4.4 全対策実施後の効果検証図 (対策後)

4.5 千曲川河川改修（国土交通省・長野県）の整備と内水対策

千曲川の河川改修は、現在策定を進めている「信濃川水系河川整備計画（大臣管理区間）」及び「信濃川水系北信圏域河川整備計画」に基づき、昭和 34 年 8 月洪水や昭和 58 年 9 月洪水、平成 18 年 7 月洪水等の本川上流や犀川からの洪水特性を踏まえ、昭和 58 年 9 月洪水と同規模の洪水が発生しても、破堤、越水等による家屋の浸水被害の防止又は軽減を図ることを目標に、今後概ね 30 年間に亘り河道掘削、築堤等の整備を行い、上下流、本支川とのバランスを確保する。

県境区間や支・派川等についても、整備に関する情報を共有するなど関係する河川管理者と連携を図りながら、水系全体として段階的かつ着実な治水安全度の向上を図っていく予定である。

なお、内水対策の実施にあたっては、これらの計画との整合を図るとともに、整備状況等を考慮しながら進めていく。

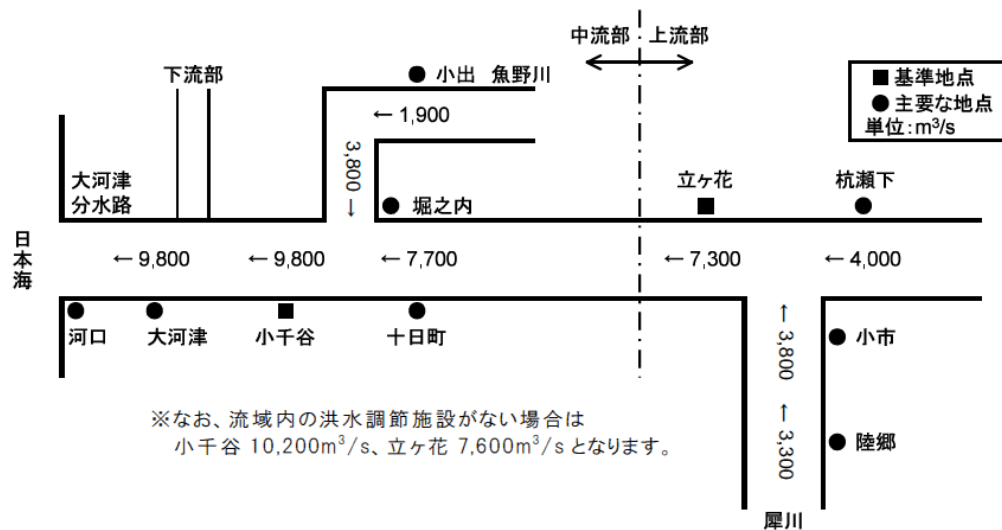


図 4.5.1 信濃川水系河川整備計画（原案） 計画高水流量図

（「信濃川水系河川整備計画（原案）平成 25 年 4 月 国土交通省北陸地方整備局」より図のみ抜粋）